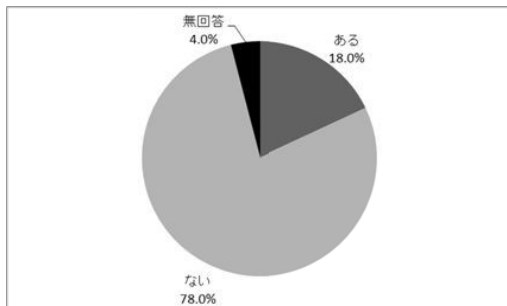


(居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションとの連携)

- 訪問看護ステーションとの連携について、困難なことが「ある」と答えたところは18.0%、「ない」と答えたところは78.0%であった。



- 困難と感じていることの具体的な内容は、「指導的な態度や言動が多く、対等な立場での相談が行いにくいこと」が最も多く、次いで「事業者が多忙等により、利用者が希望する時間帯が合わないこと」等が挙げられた。

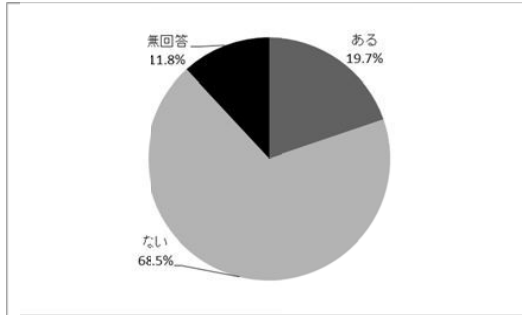
主な意見	件数
指導的な態度や言動が多く、対等な立場での相談が行いにくいこと	24
事業者が多忙等により、利用者が希望する時間帯が合わないこと	18
医師とのやりとりが多く、ケアマネジャーに対する報告は少ないこと	10
休祝日、夜間、時間外に対応してくれる事業所が少ないこと	10
担当者が多忙等により連絡が取りにくいこと	9
医療の専門用語や処置の方法などの理解が困難なこと	6
緊急時に連絡が取れない、間に合わないこと	6
訪問看護事業所の数が少ないこと	6
医療系でない事業所(ヘルパーステーション等)と連携が図られていないこと	6
医療保険の訪問看護サービスの内容等が把握できないこと	5

- うまく連携するために工夫していることの具体的な内容は、「情報交換、連絡を密に行うようにしている」が最も多く、次いで「契約時や訪問看護師の訪問時に立ち会って状態把握をしている」、「わからないことは聞く、相談している」等が挙げられた。

主な意見	件数
情報交換、連絡を密に行うようにしている	220
契約時や訪問看護師の訪問時に立ち会って状態把握をしている	52
わからないことは聞く、相談している	12
連携の取りやすい事業所を選んでいる	8
サービス担当者会議に参加してもらっている	4
訪問看護師に他のサービスの状況を報告している	4
顔見知りになっておくこと	4
訪問看護師が必要とする情報を速やかに伝える	3
24時間連絡体制・緊急連絡体制を取っておくこと	3
携帯電話の番号を交換している	3
訪問看護師が必要とする情報を速やかに伝える	3
24時間連絡体制・緊急連絡体制を取っておくこと	3

(居宅介護支援事業所と他の機関との連携)

- 他の機関との連携について、困難なことが「ある」と答えたところは19.7%、「ない」と答えたところは68.5%であった。



- 困難と感じていることの具体的な内容を機関別にまとめると下の表のとおりであった。

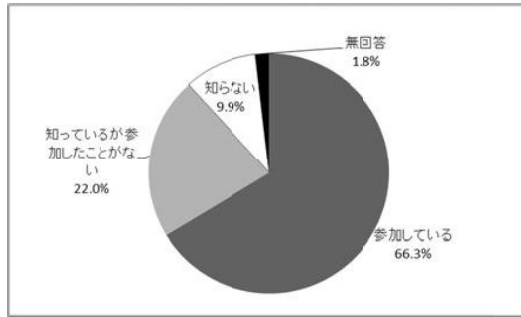
主な機関	主な意見
地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 相談しても適切な助言がもらえないこと 担当者によって対応が違うこと 困難事例について十分に情報提供がなされないこと 等
行政	<ul style="list-style-type: none"> 相談しても適切な助言がもらえないこと 担当者によって対応が違うこと 担当が数年で代わってしまうこと 等
訪問介護事業所	<ul style="list-style-type: none"> 窓口になる人(サービス担当責任者)と担当者(ヘルパー)が異なるため、情報が共有できていないことがあること 困難なことは何でもケアマネジャーに解決を求められること 等
通所リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> 窓口と現場の担当が異なるため、情報共有ができていない PTは医療系であるため、介護のことに熟知しておらず、リハビリ内容が異なる 等

- うまく連携するために工夫していることの具体的な内容を機関別にまとめると次の表のとおりであった。

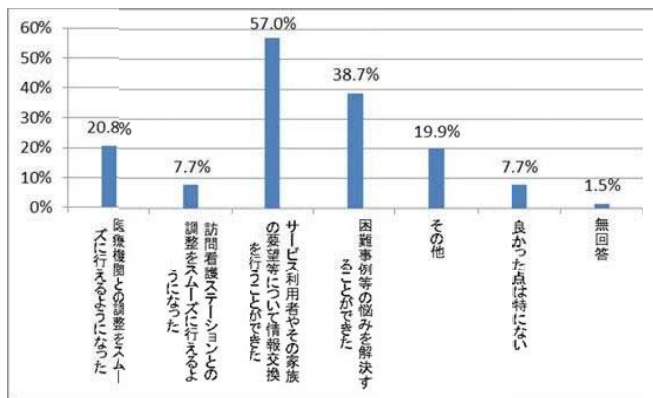
主な機関	主な意見
地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> こまめに報告や相談をしている 定期的に訪問したり、研修会に参加するなど、顔の見える関係づくりに努めている 困難事例の相談は早めに行っている 等
行政	<ul style="list-style-type: none"> こまめに電話をしている 窓口を訪問している 等
訪問介護ステーション 通所介護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> こまめに連絡を取っている 月1回の訪問の際に情報交換している 地域包括支援センターが開催する勉強会に参加し、顔見知りになっている 等
訪問リハビリステーション	<ul style="list-style-type: none"> サービス提供時に同席して情報交換をしている 毎月計画書をもったり、利用者の細かい情報についても提供してもらっている 利用者の精神面や家族のことなどの情報を共有している 等

(居宅介護支援事業所の地域ケア会議への参加状況)

- 地域包括支援センター等が開催する地域ケア会議への参加状況については、「参加している」が66.3%、「知っているが参加したことがない」が22.0%、「知らない」が9.9%であった。

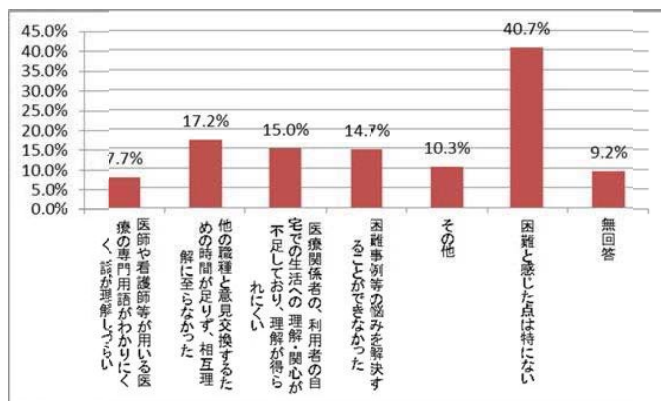


- 地域ケア会議に参加して良かったことについて尋ねたところ、「サービス利用者やその家族の要望等について情報交換を行うことができた」が最も多く、次いで「困難事例等の悩みを解決することができた」であった。



- 良かったことの「その他」の意見としては、「勉強になった」、「他の機関・職種と横のつながり・交流ができた」、「地域の資源・課題などの情報を得ることができた」などであった。

- 地域ケア会議に参加していて、困難と感じた点について尋ねたところ、「困難と感じた点は特にない」が最も多く、次いで「他の職種と意見交換するための時間が足りず、相互理解に至らなかった」であった。



(医療系居宅サービス利用者の傷病等)

- 医療系居宅サービスを利用している利用者の傷病は、「認知症」が最も多く、次いで「脳血管疾患の後遺症」、「糖尿病」の順であった。(重複可)

脳血管疾患(脳卒中)(後遺症除く)	1785
脳血管疾患(脳卒中)の後遺症	7835
心疾患(心臓病)	2852
悪性新生物(がん)	1665
呼吸器疾患	1389
関節疾患	2821
難病(パーキンソン症候群を除く)	1059
パーキンソン症候群	1194
精神疾患(認知症を除く)	1051
認知症	8049
後天性免疫不全症候群(AIDS)	88
糖尿病	2961
視覚・聴覚障害	960
骨折・転倒(大腿頸部骨折を除く)	2223
大腿頸部骨折	1653
脊髄損傷	397
高齢による衰弱	1714
重症心身障害	157
その他	1669
傷病名が不明	134

(医療と介護の連携の課題等)

- 以上の結果から、医療機関同士の連携や介護機関同士の連携、あるいは医療側から介護側に対する連携よりも、介護側から医療側に対して連携を働き掛ける際に困難と感じる割合が高いことがうかがわれる。
- また、連携を進めるうえで、地域ケア会議の開催が有効であると考えられる。
- 利用者の傷病の状況からは、認知症への対応が重要になってくることがうかがえる。